|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **議事録** | | 作成日：2014年1月28日 | |
| 作成者：石橋太樹 | |
| **議題**：第4回プレゼン内容 | **実施日**： 2014年1月24日 | | **場所**： 本館504号室 |
| **発表者**：リーダー:吉田優徳(オペレーター)　サブリーダー:鈴木健太  メンバー:石橋太樹 , 奈須健太 , 山本樹(プレゼンター) | | | |
| **参加者**：3G1、石井、田邊 | | | |
| **発表内容**：社内SNSの成果物発表 | | | |
| **質疑応答の内容**  ・レベルとは何ですか？(中野)  　ユーザのシステム利用度に応じて上がる、個人ごとに付与された一種のステータスです。他人から見た時に、そのユーザのシステム利用度が分かりやすいのでレスポンスの良さなどをはかる指標にもなります。(山本)  ・不適切な発言があった場合どうするのでしょうか？(佐藤)  　現時点では機能自体はありませんが、管理者側で問題の発言や投稿がチェック・削除ができるように考えています。(山本)  ・不適切な発言があった場合ペナルティなどはあるのでしょうか？(村上)  　現時点ではこれも考えておりません。が、問題が頻発するなどした場合は管理者側で該当発言や投稿をチェック・削除などした上で問題のユーザに勧告したり、場合によってはペナルティを課すことも考えたいと思います。(山本) | | | |
| **講評の内容**  所持資格に着目して検索に生かす、というところが良くも悪くも学生らしいと思える部分でした。今後仕事に携わっていく過程で、それ以外に必要な情報というのが見えてくると思います。  設計段階は体調不良などで欠席者が多く本当に大丈夫かと心配でしたが、何とか形になっていたし、プレゼンも前日のリハでは時間オーバーが心配されましたが、質疑応答がいくつかできるくらいに短縮できていたので良かったです。今後はプレゼン資料にもあった今後の開発予定の部分をできるように、さらにクオリティを高めていってほしいと思います。 | | | |
| **個人別に良かった点・悪かった点**  吉田優徳：　事前に練習が2回も出来て、プレゼンテータとの連携が取れない部分をしっかりと確かめられ本番に臨めたのがとても良かったと思います。やはりそれでも、息の合わない部分もちょっとありましたが、今までで一番スムーズに行ったプレゼンだと思いました。  鈴木健太：プレゼンを行う前に資料を配布するとき、各班には配っていたが先生が話していたこともあり先生へ資料を渡すのを忘れてしまった。今後はなくせるミスは避けてしっかりと準備したい。  石橋太樹：　プレゼン本番まで、きちんとシステムを完成できなかったのが１番の問題でした。また、今回のプレゼンでは遅延の結果、最初のほうからきちんと参加できなかったのもあり、最後のプレゼンなのに、まったくすることがなく終わってしまったのが心残りでした。社会に出て、プレゼンや人の前に立つことがあったときには、そのようなことがないようにしようと思います。  奈須健太：　第4回プレゼンでは照明係をしました。良かった点は第1回目のプレゼンの時にも照明をしたのですがその時は、質疑応答が終わった後に電気を点けるのを忘れてしまったので、今回のプレゼンでは出来たと思います。  山本　樹：　前日練習では練習不足が目立ち、とても酷い状態でした。そのため、自主練習を当日朝1時間ほど早く来てしたことが良かったようです。前日とは雲泥の差で、スムーズなプレゼンをすることができました。インフル復帰直後だったため、マスク着用で声がこもってしまっていた点、大きな声が出せなかった点、そしてもっと練習していればもっと内容の濃いプレゼンができたと思う点が悔やまれます。 | | | |
| **今後の仕事への生かしかた**  吉田優徳：　今後、仕事でプレゼンをする機会があれば資料提出は余裕を持って制作し、プレゼンではハキハキと自分が造るシステムの紹介をしていきたいと思います。  鈴木健太：　何かをする前に準備をするということは大事なことなので、何に対してもぶっつけでやらなくて済むようにしっかりとできるとこはやっていきたいと思います。  石橋太樹：　まず事前準備や確認をしっかりと行い、早め早めの行動を心掛けたいと思いました。そして、メンバーとの掛け合いや設計書や書類など書き終わったあとのチャックや、卒研やプレゼンで受けた注意などを意識し、仕事に取り組みたいと思います。  奈須健太：　システムを制作する際、設計書や班員との話し合いが必要なことを学び、もしこのような機会があれば同じ様にやっていきたいと思います。  山本　樹：　SE・PGとして就職するので、プレゼンする機会は多いと思います。プレゼンでなくとも、社会では今回の卒業研究のようにグループで活動することがデフォルトなので、今回の経験を生かせる部分はとても多いと思います。自分が開発した部分の、グループでの理解度の向上や共有、そして自分が直接は関わってない部分の理解度を高めることが、わかりやすいプレゼンをする上で重要だと思います。そこを意識して、万人にわかりやすいプレゼンをしていけるよう試行錯誤したいと思います。 | | | |